



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はとっても良いニュースがあります。先日このチャンネルで、『クリスチャン映画を成功させる会』からのご依頼を受けて、映画『マリガン』の字幕スーパー・プロジェクトの募集を致しました。クラウドファンディングで300万円集まれば、英語の映画に日本語字幕スーパーを付けることができます。その300万円を突破したというご挨拶は既に致しました。

実は550万円集まると、日本語吹き替え版を作ることができるんです。それでこの会は、ネクストゴールとして550万円目標の募集を掛けたのですが、残念ながら到達することはできませんでした。355万5千円が集まったということで、それをもってクラウドファンディングは終了しました。ご協力して下さった皆さんには心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ところが、クラウドファンディング締め切り後、ある方が「この映画の日本語吹き替え版完成に使ってほしい」と、多額の献金を投じて下さったんです。それによって、日本語吹き替え版ができることになりました！パチパチパチ！

『マリガン』、最初本で読まれたらいいと思います。人間にはメンターが必要ですよね。イエス・キリストのようなメンターをゴルフのコーチがやるんですが、とっても良い映画なので、私も完成を楽しみにして、DVD早く観たいなと思っています。

そして、『クリスチャン映画を成功させる会』のメンバー 小川政弘さんが本をお書きになって、送って下さいました。『60歳になったら絶対観たい映画43』。なんで43？中途半端な数字やなと思ったんですけど。

私も映画好きですが、実はこの方、素人映画ファンじゃないんです。小川さんは元ワーナーブラザーズの映画作成室長で、43年間のワーナーブラザーズ生活のうち31年間にわたって、2000本以上の映画の字幕スーパーや日本語吹き替え版を作るお仕事に従事して来られた、映画畑一本でずっとやって来られた方。プロなんです。映画通なんですね。

今まで観て来た数千本の映画の中の選りすぐりの43本。それをダイジェストで。あらすじは言ってません。あらすじ全部言ったら、これはもうネタバレじゃないですか。その映画のポイントを題材にしなから、クリスチャンの世界観でコメントが入ってるんですね。こんな映画解説の本、まず無いと思いますよ。産学社から税別1600円。よろしければ、ぜひお読みいただきたいと思います。

さて、今日私がお伝えしたいのは、これから中国がどう出るのかということです。

今まで、ロシアのウクライナ戦争のことを中心に語って来ました。

(* **ウクライナ戦争深読みシリーズ #1~4** / 2023年2月)

これについてはこれからもお話して行きますが、やはり日本のすぐ近くにある独裁国家、そして、日本の安全保障に直接大きな脅威を与えている国は中国に他なりません。この中国がこれからどう出るのかについて、ひと言だけお話しします。

私は毎月1回 ある場所で、何人かの経営者の方々と、国際情勢や時流、聖書の世界観について分かち合う時間を持っています。先日 講演の後に食事をしました。

私以外に6人、3人が男性、3人が女性の経営者です。

やっぱり、経営者は先を見ないと生き残っていけないわけですね。

そういう方々との意見交換は、私にとって有意義な時間なんです。

その時話題になったのは、中国で反スパイ法に違反した容疑を掛けられて、突然逮捕・監禁状態になっている日本人社員、製薬会社アステラスのベテラン社員のことでした。

中国に進出した日本企業の団体を中国日本商会と言いますが、その幹部を務めたこともある、中国について非常に精通している50代のベテラン社員が、今まさに日本に帰国しようとした瞬間、反スパイ法に違反した容疑で逮捕され、拘束されてしまったんですね。

なぜ拘束されたのか、反スパイ法違反と言うけど、具体的にどんなスパイ活動をしたのか、中国は一切言わないんです。

中国は2014年に反スパイ法を作りました。この法律の前にも、スパイを取り締まる法律はあるんですよ。そんな法律、日本以外のどの国だって持っているんです。スパイを取り締まる法律があるにも拘わらず、2014年に新たに作り直したこの法律は何が違うのか。

今までの法律でスパイ行為に当たること以外のスパイ行為についても取り締まる。

それが何かは一切書いてない。非常に曖昧。

つまり、何がスパイ行為であるかを決めるのは中国当局なんです。

罪が無い日本人に無理やり罪を被せて、スパイに仕立て上げることができるような法律。これが反スパイ法で、今まで日本人17人がこれによって捕まっています。

そのうちのお一人は病死しました。11人は刑期を終えるなどして日本に戻って来られ、今回の方を含めて5人が拘束されているんですね。実にけしからんことです。外国の国民を、何も悪いことしてないにも拘わらずスパイの容疑を被せて、長期にわたって拘束するというむちゃくちゃな、これはもう法治国家とは言えません。

ですが、参加していた6人の経営者がみな異口同音に言うには、「なんでそんな国に社員を送るんですか？その会社の社長は。」

その中の何人かは中国と取引をしているのですが、「どうにかして一刻も早く中国との関係を切る。見限る。これが今、日本の経営者がしなければならないことだと思えますよ。」

「罪が無い人をいつでもスパイにして、そして、死ぬまで出て来れないかもしれない状態になる。そんなところに自分の社員を送ること自体が、企業の経営者として失敗だと思いますよ。」

皆さん異口同音に、中国には期待のひとかけらもないんです。

「中国はもう変わりません。これからどんどん、もっともっと悪くなって行く」と言ってました。非常に反発している。普段は6人とも温厚な方々なんですよ。そんな方々が非常に力を込めて、そう主張していたのが印象的だったのですが、私はこれは正しい反応だと思います。そしてこれが、これから世界が中国に抱く反応になるに違いないと思うのです。

中国はこれからどう出るでしょうか。

全世界から総スキャンを食らうようなことを平気でやり続けます。

しかも、そのことに無頓着なので、ますます世界から反発を食らう国になります。なにしろ中国の当局者にとって、国際世論よりも習近平という独裁者の顔色がなによりも恐るべきものであり、何よりも第一に優先しなければならないことなのです。これから中国は、ますます鼻持ちならない国になると断言していいでしょう。

反発を受けても中国が全く無頓着なのは、「我が国は放っていても強い国になる。2050年までには世界のGDPの30%を握るようになる。我が国が強くなれば、今ブーブー文句を言っている国々も我が国に従わざるを得なくなる」という目論見があるからです。

だけど、今はそんな時代じゃないんです。世界から孤立したら、どんな大国もうまくやって行くことは出来ません。今ロシアを見たら分かるじゃないですか。それが分からないのが、習近平の独裁中国ということです。

私たちは中国がどう動くのかコントロールできない。

しかし、無頓着になって行く中国に対して日本がどうあるべきかは、自分の国のことだから決めることができるんですよ。

今すぐしなければならないことは、法律によって、“日本は侵犯されない国である”という意思表示をしていくこと。これが非常に大事になって行きます。

それについては、またこのチャンネルで発信していきます。ぜひお聞きください。

チャンネル登録もお願いします。ではまたごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！